



■日程 2022 年 3 月 7 日（月）～12（土）
予備日 13 日（日）
実働 6 日、予備日 1 日の計 7 日

■ルート概要

見上峠—医王山—刀利峠—順尾山—大門山—
大笠山—笈ヶ岳—野谷荘司山—北弥陀ヶ原—
白山—殿ヶ池避難小屋—市ノ瀬—風嵐ゲート

■エスケープ案 ①横谷峠・刀利峠→湯涌温泉
②大門山→西赤尾
③大笠山→中宮温泉
④笈ヶ岳→一里野
⑤野谷荘司山→白川郷

■個人装備

山岳スキー用品一式（3 人ともセンター95mm程
度の板に Tech ビンディングを使用）、冬山登山装
備一式、ハーネス、カラビナスリング少々

■団体装備

3～4 人用テント、ガストープ×2、
ガスカートリッジ（500g×3、250 g×1）、
5mm×30mロープ、土嚢袋数枚（支点用）

<プロローグ>

「この稜線、白山まで続いているらしいです
よ」。この山行の発端は、昨秋に奥医王山にてメ
ンバーのひとりに話したことがきっかけだった。
医王山とは、白山を主峰とする両白山地の最北端

にそびえる標高 1000m 足らずの低山である。た
だ、無雪期の両白山地は藪がうるさく、登山道が
ない箇所も多いため、積雪期に山岳スキーを使え
ば容易に縦走できるのではないかと考えた。そし
て、今年 3 月医王山から白山を“白山北方稜線”
と銘打って縦走することとなった。ただ、過去の
記録を探しても記録が全くないため、所要時間や
装備、リスクについて想像し難いものがあった
が、、、

<day1 3 月 7 日>

6：00 見上峠—9：00 奥医王山—14：00 刀利峠
—16：00 順尾山登山口

大学から 15 分足らずの医王山の登山口・見上
峠出発する。湿っぽい雪が降っており、重荷と相
まって、この先が思いやられる。この日は、計画
通り順尾山登山口で幕営する。初日は、林道をシ
ール歩行する箇所が多く、比較的距離を稼げて嬉
しかった。

<day2 3 月 8 日>

6：00 順尾山登山口—7：00 順尾山—8：30 大倉
山—10：00 赤堂山—12：30 月ヶ原山—
15：30 大門山—17：30 赤摩木古山—18：00 ナタ
メ平手前のコル

2 日目も天気恵まれ快適な行動になると思っ
ていた。しかし、小さなアップダウンの多い稜線
を巻くか通していくか判断が難しく、想像以上に
時間が掛かってしまった。稜線を巻くと、雪崩の
リスクがあり、トラバースは足が疲れてしまう。
一方、稜線通しだと、雪庇の発達やシール歩行か
滑走かの判断に悩ませられる。結局、シートラッ
ポ足で処理する部分もあり、薄暗くなる 18 時く
らいまでの行動となった。大門山では、目標の白
山を捉えたが、気が遠くなるほど遠く感じられ
た。このままでは、計画の変更を余儀なくされそ
うだ。

<day3 3月9日>

7:00 ナタメ平手前のコル—9:30 見越山—11:00 奈良岳—14:30 大笠山—
17:30 笈ヶ岳—18:00 小笈ヶ岳付近の1730mピーク

この日もスキーでは通行が危険な箇所があり、ダブルウィペットとアイゼンによる歩行を余儀なくされるため、長時間行動となってしまった。大笠山からその先の最低コルまでは標高差が300m近くあり、入山3日目にしてようやく“ひゃっほー”なツリーランを楽しむことができた。通常の山行であれば、目的地となりうる笈ヶ岳も今回の山行では、通過点に過ぎず、日の入りも迫っていたため、写真を適当に撮影して陽が沈むギリギリの時間に小笈ヶ岳付近で幕営とした。

<day4 3月10日>

6:30 小笈ヶ岳付近の1730mピーク—9:00 仙人窟岳—12:30 瓢箪山—13:30 三方岩岳—
15:30 野谷荘司山—16:30 もうせん平

この日は、瓢箪山までの稜線がとにかく悪かった。アイゼンシートラで稜線通しを歩いたり、稜線を巻くために滑走したりトラバースしたりシール登行したりで、体だけではなく頭も使った。野谷荘司山の白谷では、医王山以来のトレースを発見し、その先には縦走路の中で最も下界に近いポイントであろう白川郷が見える。ここまで好天に恵まれ、予定通り計画を消化できそうな気がしてきた。連日、長時間行動が続いていたため、今日は早めにもうせん平で幕営することにした。



<day5 3月11日>

6:00 もうせん平—7:30 妙法山—12:00 間名古屋の頭—18:00 白山（御前峰）
—18:30 白山室堂

これまでの4日間に比べると快適な稜線歩きが続き、ぐんぐん距離を延ばすことができた。そして、5日目にしてようやく標高は2000mを超えた。しかし、連日の長時間行動によって靴擦れが酷く、水膨れや皮が剥けた箇所が多く、なかなかしんどい行動が続いていた。16:00頃、お花松原に到着し、ここで幕営するか協議がなされるが、快適な冬季小屋の中で幕営したいという気持ちが勝り、また、天気が良いこともあり、白山室堂を目指して行動を継続することとした。そして、日も暮れかけた18:00、白山北方稜線の最後のピーク白山最高峰の御前峰(2,702m)に登頂した。ピークから30分ほど下った白山室堂で冬季小屋の中でこの日は幕営した。



<day6 3月12日>

8:00 白山室堂—9:30 別当出合—10:00 市ノ瀬—13:30 白峰風嵐ゲート

今日は6日目にしてようやく滑走を楽しむことができる日。殿ヶ池避難小屋経由で白山室堂から市ノ瀬まで標高差1,600mを滑走した。白山公園線の林道は、昇温や融雪によって雪崩や落石が酷く、通過自体にリスクがあると感じた。そこは、メンバー間の適切なポジショニングやスキーの機動力を活かし、処理した。そして、6日目の13時半、16kmの林道滑走を終え、最終目的地としていた白峰風嵐ゲートに到着した。



<エピローグ>

天候に恵まれ、計画通りに近い形で山行を完遂することができた。確かに、医王山から白山は繋がっているものの、稜線上は気持ち良く滑走できる部分が少なく、シールを付けたままでの滑走やシートラを余儀なくされる部分も多かった。夏に本ルートを踏破できる人は現れるのであろうか、..

本山行記録は、山と溪谷社より発売の「ROCK & SNOW98」にも掲載されておりますので、併せてご覧いただけますと幸いです。また、ヤマレコ (<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-4071254.html>) もご覧ください。



「会員のご意見」

倉谷ベルクハイムの今後について

かつて、初代の倉谷ベルクハイム(BH)の計画・対外折衝・設計・施工管理を担当した合津(6期)です。秋には、ダムへの県道が関係車両以外通行不可となったことで、恒例の小屋作業も中止となった由でした。合津は、今は、単なる1人のOBの立場ですが、一言をと思いました。

倉谷への県道の災害復旧が終わったとしてもやがては、BHを愛してこられたOB諸氏の高齢化に伴いその補修・維持は出来なくなると思われます。BHの土地は、旧・金沢営林署(現・石川森林管理署)が管理する国有林野を金沢大学長が使用申請し、認められて、更新を繰り返してきたものです。BHの維持が出来なくなれば、世の常識としては原状に復して(更地として)使用終了とすべきですが原状回復には数100万円を要す(擁壁部を含む「建設廃棄物」のヘリコプター運搬)と思われます。

そこでの提言ですが、今後とも、BHが朽ち果てようとも、OB会の方で建物敷地の「使用更新」だけは継続して頂くのが妥当かと思います。

出来れば、あの地に「かつてここに、金沢大学ワンダーフォーゲル部の山小屋「ベルグハイム」あり」の様な不銹軽金属製標識の設置があればと思います。(コンクリート運込みはもう出来ないの)

6期・合津 尚

(上は長岡が合津様から電話お聞き取りして文章化し、更に電話での読み上げで確認したものです。)

「やまざと」誌は、今後とも印刷冊子を希望します

「やまざと」昨年号に、「紙媒体の冊子である必要はないのではないか」とのご意見が寄せられておりましたが、それについての意見です。

世はデジタル化全盛で、それは傾聴すべきご意見ですが、歳とともにPCをお使いではないOBも増えます。紙印刷物の瞬時一覧把握性(冊子はページばらばらでも内容のある程度は把握でき、地形図や新聞等でも同様)は、貴重と思います。

何よりも、PCやデジタル媒体は壊れることがあります。紙は永遠です。PCをお使いではない方への配慮も必要と思います。

11期・長岡正利

(上は合津様も同意見です。また、3期・田村様(WV創設のお一人)も、BHを含めて同じご意向でした。)